一 西 だ よ り

豊川市立一宮西部小学校通信
令和7年　2月　26日　第36号
発行；校長　村上謙一

【第7回　チーム担任制は手段のひとつ】

子どもの主体性と当事者意識を育み、10年後20年後の社会で生きていく力を育むためのチーム担任制。今回は本校の若者教師2人がつないでくれた名古屋市立八幡中学校長　高橋幸夫先生から学んだことをお伝えします。主体性と当事者意識を育むと、中学生はこんな姿になります。

① 制服はあるが、酷暑の時期はTシャツとハーフパンツ姿の生徒が多くなる。季節に合わせた服装を自分で選ぶ。ただしTPOをわきまえており、儀式などの時は教師の指導なしで 94%の生徒が制服を着用する。制服、体操服は生徒が選定する。

② 生徒会活動は業後のわずかな時間で行える。生徒会活動に必要な企画、意見交流は帰宅後のタブレットでつながって行う。学習塾後の夜に提案書が作成されるケースも見られる。楽しくて、ついそうなっている様子だとか。生徒が自ら進めるので、教師の業務負担はおのずと減っていく。

③ 体育大会が「運動の苦手な子が楽しくない日」にならない行事に変身する。「ガチ種目」と「おたのしみ種目」に分けて体育祭とした。もちろん生徒の企画・運営である。

④ 合唱コンクールが「歌の苦手な子、音痴な子にとって苦痛でないもの」に変身する。合唱コンクールは楽しめる活動を自ら選び、縦割りで活動する「文化祭」へと変化した。もちろん生徒の企画・運営である。

⑤ 生徒会主導のルールメイキング、行政・企業とのマネジメントにより自販機が導入される。学校でスポーツ飲料やコーンポタージュスープが飲めるんだって！商品も生徒が決めている。

令和7年からさらに一歩進めるチーム担任制によって、一西小の子どもたちの主体性と当事者意識が高まり、どんな小学生の姿が生まれるのでしょうか。教職員も前例踏襲や横並び意識を改め、これまでの当たり前を問い直す姿勢が必要になります。困る場面も出てくるとは思いますが、私には期待感しかありません。まずは、やってみる。うまくいかなければそれは失敗ではなく、成功に向けた改善のチャンスと考える。そんな学校はだれにとっても楽しい場所になるはずです。

【感性について】

「お席、いかがですか」

この言葉は、ある初老（しょろう；校長くらいのお年より）の男性が電車の中で、小学生の少女にかけてもらった言葉として、新聞の投稿欄（とうこうらん）に紹介されたものです。

この少女は、この男性が初老だったからか、きっと断りやすいように、「お席どうぞ」ではなく「いかがですか」という言葉を選んだのでしょう。この少女の思いやり、この言葉を選んだステキな感性に感心しました。そして自分をふり返って、はずかしくも思いました。

私は最近、コンビニでの買い物でも「ありがとう」の一言すら言わずにレジを離れている自分に気づくことがあります。自動車で通勤する道すがら、交通整理のおじさんにも「おはようございます」や「ありがとうございます」が言えていないことにも気づきます。まさに感性がさびついていると言えます。

「いそがしい」とグチばかりこぼしている自分。「あれが悪い」とうまくいかないことを何かのせいにして、不幸せの気持ちでいっぱいにしている自分。私を含めて人は時々こんな自分になることがあります。しかし、ほんとうにそうなのかは振り返ってみる必要があるでしょう。もしかすると「ゆとりを感じる心」「幸せを感じる心」そのものが薄れてしまっているのかもしれません。

この少女のような「ステキな感性」を身につけていくことは、大人にもなかなかできるものではありません。そして、たとえ一度身につけたとしても、すぐにはがれてしまうこともあるようです。感性をみがくためには、自分なりの努力を続ける必要がありそうです。

これも「今までの当たり前を問い直す」ことから始められそうです。校長の感性がさびついていたらみんなで教えてくださいね。みがきなおします。